

緊急学習会

これからが始まりだ！

— 戦争法案強行採決に屈せず、何ができるか考えよう —

9月17日夜、戦争法案が参議院特別委員会で強行採決され、19日未明、本会議で可決成立してしまいました。

特別委員会での採決は、まるでだまし討ちのような自民党の作戦のもとで行われ、ヤジ怒号が飛び交う中、「聴取不能」としか議事録に残せないほどの大混乱でした。こんなやり方で「採決した」とは、到底認められません。採決させないよう国会で大活躍した小西ひろゆき参議院議員と、「こんな採決は不存在だ」と署名運動を行った醍醐聰さんを迎え、あの日何があったのか、これから私たちはどうすればいいのか、を話し合います。ぜひ、ご参加ください。

ゲスト

- 小西洋之参議院議員
- 醍醐聰東大名誉教授

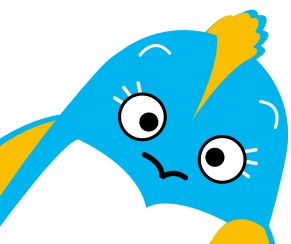
小西ひろゆき議員



10月6日(火)午後6時～8時

会場 市民ネットワーク千葉県・4階会議室

参加費 500円



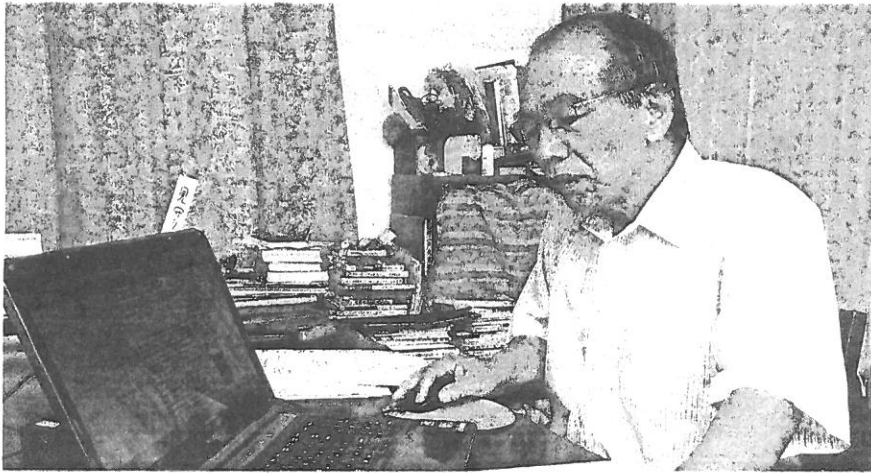
どさくさ採決 認めない

安保法案 17日の参院委

与野党議員がもみ合いになる中で安全保障関連法案を可決した十七日の参院特別委員会の議決は「参院規則の表決の要件を満たしていない」などとして、東京大の醍醐聡名誉教授（会計学）らは、議決がなかったことの確認と審議続行を参院議長や特別委員長に申し入れようと、市民に賛同を呼び掛けている。二十日午前十時半ごろ集め始めたインターネットの署名への賛同は二十一日午後十一時までに五千七百筆を超え、政府与党への批判が急速に広がっている。

（西田義洋）

東大名誉教授ら賛同呼び掛け



十七日の参院特別委員会は、民主党が提出した鴻池祥肇委員長の不信任動議が与党などの反対多数で否決された直後、鴻池氏が委員長長席に着席。野党の議員が採決を阻止しようと、一斉に委員長長席を取り囲み、与党議員と押しくらまじゅう状態になった。

安保法案の質疑打ち切り動議が与党などの賛成多数で可決され、野党議員の「やめる」「無効だ」の叫び声が上がると、安保法案は与党などの賛成多数で可決されたという取り扱いになっている。

しかし参院規則では、議決は安保法案を可決した参院特別委員会の議決がなかったことの確認などを求め、インターネットを使って署名活動をする醍醐聡東大名誉教授「千葉県佐倉市で

署名に寄せられた賛同コメント

- 「議事録に記録されていない議事は、存在しない。存在しない議事に基づく審議は無効」
- 「何も聞こえない議員らに立ち上がれと合図し、採決できたとする映像は、子どもに見せられない」
- 「委員会に所属していない与党議員が乱入していた」
- 「公聴会の報告と審議が特別委員会ではなされていない」
- 「違憲の疑い濃厚で、安倍首相も認めるとおり国民の理解と納得もまったく進んでいない」

署名2日で5000人超 批判拡大

長が採決する時は議題を宣告した上で、賛成議員の起立で多数か少数かを認定し、結果を宣告すると規定されている。翌十八日には弁護士有志二百二十五人が「法的にみて議決とは認められない」と、議決がなかったことの確認と審議再開を参院議長らに要請した。

醍醐氏も「参院のインターネット中継やテレビ中継で見られる限り、委員長の議事進行の声を委員が聞き取れる状況になかったことは一目瞭然。委員長も動議提出の声を聞き取り各委員の起立を確認できる状況になかった」と指摘。「未定稿の速記録でも『議場騒然、聴取不能』と記されるのみで、議事進行を促す委員長の発言も質疑打ち切り動議の提案も記されていない」と批判している。

醍醐氏が十八日、参院事務局に「鴻池氏は自席で起立した委員を確認できない状況で、どうして賛成多数を認定できたのか」などと問い合わせたところ、事務局の担当者は「委員長は見えたんだと思いますよ」などと回答したという。

醍醐氏は「このようなおまりに理不尽な状況が既成事実としてまかり通るのを見過すことはできない」としている。署名活動の賛同者からも、「議事録に記録されていない議事は、存在しない」などの意見が寄せられているという。

申し入れは今国会会期末の二十七日までに提出する。会期末まで時間が切迫していることから、賛同の署名はインターネットのみで受け付ける。締め切りは二十五日午前十時。署名のURLは、<http://nets.y.cocolog-nifty.com/blog/2015/09/post-6f5b.html>